



8月29日(土)盛岡市で、近江商人来盛四百年を記念した公開フォーラム(若手滋賀県人会・近江商人末裔会主催)が開催され、近江商人の末裔の方ら約250人が参加されました。盛岡市内はもとより東京などからも参加者があり、高島市からは竹脇義成副市長や安曇川地域まちづくり委員など16人が参加しました。

この記念事業は、単に始祖や先祖を偲び、敬うばかりでなく、盛岡と高島との結びつきをより深め、これからの文化・経済の交流を図りながら、互いの発展に貢献していくことの思いが込められています。

近江商人来盛四百年記念事業に参加 偉大な足跡に理解深まる

盛岡と高島、絆より深く

フォーラムでは、作家の斎藤純氏をコーディネーターに、池田克典盛岡市副市長、竹脇義成高島市副市長、藤井克己若手大学学長(大津市出身)、村井研一郎(株)村源会長(村井弥衛門の末裔)をパネラー

近江商人来盛四百年を迎えて

岩手滋賀県人会・近江商人末裔会
会長 村井宏 さん



盛岡近江商人の始祖とされる村井新七が、当時の藩主南部利直公に招かれ、近江湖西から遠野郷を経由して盛岡に入ったのは、いまから約四百年前の慶長十八年(1613)四月十日とされています。

新七は、盛岡市の中心地である地を与えられ、以後、彼を頼って近江から多くの商人や志望者がやってきました。彼らは刻苦活躍し、藩の財政への寄与、地域の発展に努めました。盛岡の発展に貢献した彼らの役割は、計り知れないとされており。

今年は、たまたま「盛岡市の市制百二十周年記念」にもあたります。これに因み、私たちは始祖たちの偉業を偲びつつ、一方、岩手と滋賀を結ぶ絆と人々の交流や各種の一層の連携を深め、今後の地域発展に貢献すべく、「近江商人来盛四百年記念行事」を開催しました。

8月29日(土)に「草鞋脱ぎ場」記念碑の除幕式、近江商人に関わる「公開フォーラム」等、竹脇高島市副市長様をはじめ、多数の市民のご参加をいただき盛況に行うことができました。高島市の皆様のご支援、誠にありがとうございました。



盛岡市本町通一丁目の「上の橋」のたもとに建立された記念碑。「始祖 草鞋脱ぎ場」と刻まれています。

進出の原点の地に 記念碑建立

フォーラムに先立ち、記念碑の除幕式が行われました。

記念碑が建立されたのは、高島商人の先駆者 村井新七が「近江屋」を開き、後に「草鞋脱ぎ場」として高島商人進出の拠点となった盛岡市の「上の橋」のたもとです。

この地への建立は、岩手滋賀県人会・近江商人末裔会にとって長年の夢であり、来盛四百年の記念すべき年に、意義ある場所への建立が実現しました。

酒造の元祖小野権兵衛

村井新七は町割りができた京町(上ノ橋西詰め)に土地を与えられ、郷里高島からやってくる人たちの「草鞋脱ぎ場」となりました。

先に述べた、小野権兵衛主元は寛文2年(1662)、新七の誘いを受け盛岡に下り養子となり村井権兵衛主元を名乗りました。元々商家の次男であり、商いのほか酒造技術なども身につけ、当時盛岡では知られていない『すみ酒』の製法に通じ、後に志和に独立し村井近江屋を開きました。

村井家と「内和」制度

ところで、先述の「草鞋脱ぎ場」は同郷の高島商人たちの宿を提供して商売をさせるだけでなく、現代の系列化やチェーン化のための足たまりであったとされています。

丁稚として雇用し商人教育を施し、後には暖簾と資本を与え独立させ周辺地域に系列店を広げさせました。この系列店を「内和」と呼び、単

なる親睦組織ではなく共同組合的な性格を持ち、経営難になった場合には無利子で融通しあうと共に、奉公人や子弟の共同管理等も行っていました。さらに、競争を禁じ暖簾分けし、出店時には同業を許しませんでした。

盛岡での大溝系

近江商人の三始祖

盛岡における大溝系近江商人の三始祖といわれるのが「村井新七」であり「小野権兵衛」、そして「村井市左衛門」です。

村井市左衛門(村市)は新七の同族で、盛岡では酒造業や質屋を営んでいます。明治には、第90国立銀行創業の一人となる近江屋勳兵衛らの有力商人を輩出しています。

現若手滋賀県人会の村井宏会長は、同家第13代目の当主でもあります。

みちのくの地に流れる 血縁の絆の尊さ

高島商人は近江商人の中でも、いち早く南部に旅立ち八幡商人や日野商人などとは異なる展開を見せ、本拠を地元で置かず移住しました。そうしたことから、盛岡における高島

商人の活躍の様子は殆ど知られることなく、今日に至っていました。

しかし、平成元年度から3年間、滋賀県が県内外で開いた「AKIN DO(あきんど)フォーラム」が契機となり、旧安曇川町や旧高島町では、みちのく盛岡で高島商人の子孫として、あるいは故郷(高島)に思いを馳せながら活躍されている皆さんとの交流を、持続的に進めてきました。

とりわけ、平成8年6月には盛岡市を流れる中津川に、安曇川から運んだ2万尾の鮎を放流する事業を行いました。時あたかも盛岡城築城四百年を迎える時でもあり、かつて先人達が盛岡へ下り南部藩のまちづくりに貢献してきた歴史を振り返り、高島商人の活躍と鮎の姿に思いを寄せられていました。

合併後も、盛岡市に拠点を置く若手滋賀県人会の皆さんとの交流を大切にし、事業展開を図っています。



出典 高島商人 隠れたる近江商人の謎 駒井正一 著

時代	西暦	事項
桃安山土	一五七八	南市商人、安曇川の南市から大溝に移り住む。
...	一六一〇	大溝出身で高島商人の盛岡における開拓者、村井新七、東野の小友に行く。(八月)
...	一六一三	村井新七、盛岡に行く。(四月)
...	一六三三	村井市左衛門、大溝で生まれる。
...	一六六二	小野権兵衛主元、大溝からやって来て、村井新七家で「わらじ」を脱ぐ。
...	一六六三	大溝、井筒屋、初代、小野新四郎没する。
...	一六六六	村井新七、盛岡で没する。
...	一六八二	小野善助没。大溝から岩手県「志和」へ行く。
...	一六八六	初代、村井市左衛門、五十三歳で没する。(七月)
...	一六八九	小野善助没。分家し、盛岡で「井筒屋善助店」を開く。
...	一六九〇	二代目村井権兵衛は、郡山「井筒屋」を開店する。
...	一六九八	大溝出身の大塚屋村共、青森県の八戸三日町に出店を開く。
...	一七〇四	福井清右衛門、大溝から盛岡へやって来て、村井市左衛門商店に勤める。
...	一七〇八	小野善助、京都へ進出し、柳馬場六角下ルに町屋を買って住む。この年、江戸に「善助」支店も開く。なお、初代の小野清助は、三十六歳の若さで昇天する。
...	一七二二	二代目小野権右衛門勝昌、誕生する。
...	一七二四	大溝出身の初代「柳屋」の村井新右衛門好観、他界する。(一月)
...	一七三二	盛岡の小野善助店と小野清助店との店を取り換える。
...	一七三三	小野善助、京都の烏丸通押小路上ルに、京都「井筒屋」本店を開く。
...	一七三三	初代小野権右衛門、七十二歳で没する。(十月)
...	一七三四	三代目、村井権兵衛(泰明)、領主より二百五十両の御用金を命ぜられる。

高島商人の人物年表